

校訓

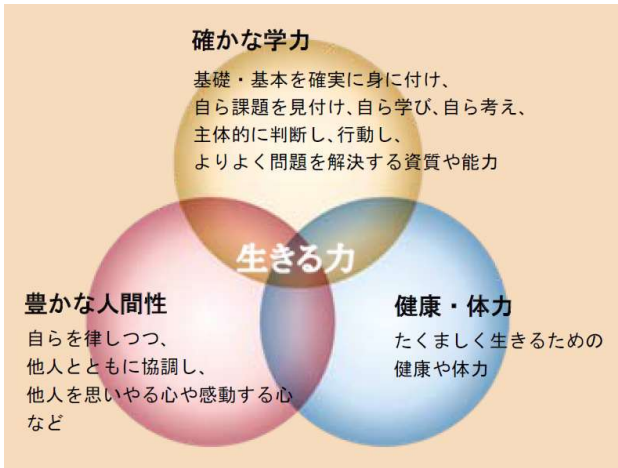
郷土を愛し
明るく素直で
たくましく

文責：校長 川内康範

「子どもたちにつけてほしい力は？」

保護者のみなさんは、どう思われますか？突然、こんな漠然としたことを聞かれても……と戸惑われたのではないかと思います。すみません。

文科省の学習指導要領には「子どもたちの生きる力を育みます」と書かれています。そして左のような図が載っています。「確かな学力」「豊かな



人間性」「健康・体力」の3つをバランスよく兼ね備えることよって「生きる力が身についた」と言えるでしょうね。

私がイメージする子どもたちにつけてほしい力は、「困難を乗り越えて、幸せを築いていく力」です。「幸せ」という言葉も漠然としています。人生への満足感」と言い換えることもできると思います。そう考えると、中学生だけでなく、私たち大人の生き方にもかかわってきます。福岡県小郡市で悲惨な事件が起きていますが、あのニュースを見てみると、内情(困難)は全然わかりませんが、乗り越えられなかったのかなあ、と考えてしまいます。

28年2月の学校だよりに次のような文章を紹介しています。

ヘックマン教授らは、学力テストでは計測することができない非認知能力が、人生の成功においてきわめて重要であることを強調しています。また、誠実さ、忍耐強さ、社交性、好奇心の強さ—これらの非認知能力は、「人から学び、獲得するものである」とも。

おそらく、学校とはただ単に勉強をする場所ではなく、先生や同級生からの学びの場を学ぶ、「非認知能力」を培う場所でもあるということなのでしょう。(中略)
人生を成功に導く上で重要だと考えられている非認知能力のひとつは「自制心」です。

『「学力」の経済学』中室牧子著
「人生の成功」については、考え方・価値観は人それぞれですから一概にはいえないと思います。少なくとも私たち大人は、子どものテストの点数だけで一喜一憂するのではなく、子どもの「誠実さ、忍耐強さ、社交性、好奇心の強さ」を育てていかなければならないと改めて感じています。

再び引用ですが、29年1月の学校だよりでは次の文章を紹介しています。

人は、「何をやったか」よりも「どのようやったか」によって人生への満足度が決まるのだと思います。めざましい業績を上げたとか、ものすごくお金を稼いだ、というような「成果」よりも、いつも誠実に仕事に取り組んでいる、関わる相手をいつも大切にしている、というような姿勢の方が、深く揺るぎない自信や折れない心、そして人生への満足感につながるのです。

『折れない心の作り方』水島広子著
このような「人生への満足感」を積み重ねていくような生き方を追求したいと私自身思いますし、子どもたちにもそうあってほしいと願っています。



2日、昼休みは花壇に花の苗を植え、6時間目はプール掃除でした。みんなで頑張りましたよ。

